育成 モノづくり人材 Vol. 45

岩手県立 黒沢尻工業高校

早い段階に働くイメージ

キャリア教育に力を入れる岩手県立黒沢尻工業高校は、生徒の進路決定率100％を誇る。卒業生の約7割が就職し、卒業後3年間での離職率は2割弱と、普通科高校の半分程度だ。高い就職率と定着率のカギは社会との接触の多さにある。同校では2年生全員が岩手県内の製造業で5日間のインターンシップ（就業体験）を経験する。早い時期から働くイメージを沸かせ、その後の学習で仕事に使えるスキルを磨く。

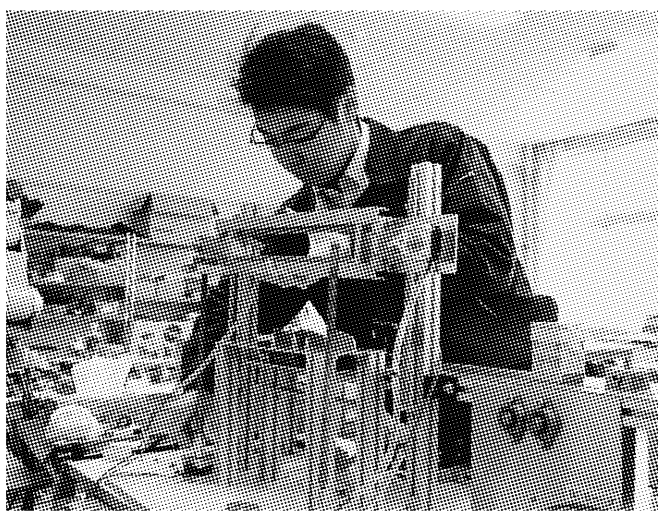
3年生になると「課題研究」に力を入れる。1クラス約40人を数グループに分け、各グループが興味のあるテーマに1年間取り組む。その一つ「黒岩プロジェクト」は地域との連携企画だ。生徒主体で地元住民にヒアリングしてニーズのある品物を設計・製作し、発表会を経て納品する。これまで薪ストーブや案内板、ミストシャワーなどを作ってきた。失敗も多いが「諦めないでやる姿勢が、社会に出て役に立つ」と福士猛夫校長は語る。

福士校長

【DATA】▷校長＝福士猛夫氏▷所在地＝岩手県北上市▷学科構成＝機械科、電気科、電子科、電子機械科、土木科、材料技術科、工業技術科（専攻科）▷生徒総数＝666人▷主要設備＝マシニングセンサー、旋盤、フライス盤、CADなど▷主な進路＝東北電力、トヨタ自動車東日本、トヨタ紡織東北、カルソニックカンセイ岩手、アイシン東北、塩野義製薬、岩手県立大など

同校の大きな特色の一つが「専攻科」の存在だ。工業高校を卒業した生徒が入学し、2年間の専門教育を受ける。短期大学や高等専門学校に比べ、実務教育に重点を置く。全国で同科があるのは十数校しかなく、県内では唯一。県内企業などからハイレベルなモノづくり人材を育成してほしいと要望があり、2007年に設置した。

専攻科は会社によって短大卒の待遇で就職できる。1年生のうちから就職を意識した企業訪問、インターンシップ（2週間）を経験し、企業側とのマッチングを図る。2年生で就職活動をする際は、ほとんどの生徒がインターンシップ先の企業に内定する。



修了研究でハンダ自動機を製作する専攻科2年の藤原さん

岩手県や各企業などと連携した独自の「北上川流域ネットワーク」も専攻科の強みだ。ネットワークを活用し、大手企業の社長らを講師にした特別授業が受けられる。地域全体で、次代を担う人材を育成していこうとする気風がある。

生徒らもそれに応える。専攻科生は、内定を獲得した後「修了研究」に没頭する。製薬会社に内定した菊地聖大さんは、錠剤の質量を計測する「抜き取り検査装置」を開発中。制御機器メーカーに入社予定の藤原清澄さんは「ハンダ自動機」を製作している。モノづくりに挑む姿勢が、高い進路決定力を支えている。

（仙台・田畑元）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社